

マツタ工業株式会社

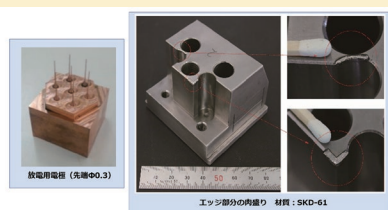
軽量・小型化など、医療福祉機器のニーズに応えます！

技術・製品紹介

- ◆カタにはまらない型づくり
- ◆大型から精密製品まで、金型に関しては設計から加工、組み立てまでの一貫体制
- ◆最も重要である「人」そして「モノ」を大切に、「製品の生みの親を作っている」というプライドを持って仕事に取り組んでいます！

放電用電極 (先端φ0.3)・エッジ部分

放電電極の先端直径 0.3 ミリの切削加工やレーザ溶接でエッジ部分の肉盛量を適切にコントロールするなど、お客様のご要望に合わせた製品を提供します。



回転椅子からの立ち上がり補助具の開発協力

障がいの有無に関わらず、一緒に全員が活躍・力を発揮する「ユニバーサルものづくり」を推進するオムロン太陽の取組に共感。当社の培った技術で開発を協力。



大型金型製作から加工、機械保全、3D モデリングなど柔軟な製造体制

各種加工機器・測定機器を使用し、金型製作はもちろん、大型産業機械、プラスチック樹脂製品加工、CAD を使った設計や3次元製品モデリング、そして機械保全をメインに業務を行っております。



会社概要

所在地 〒882-0007 宮崎県延岡市桜ヶ丘 3 丁目 7094 番地 2

電話番号 (0982) 21-1427

資本金 10,000,000 円

設立 1966 年 12 月

代表者 代表取締役社長 松田 佳久

事業内容 射出成形金型設計・製造装置加工・金型メンテナンス・プラスチック製品加工・機械保全・製缶

資格・特許等

ホームページ <http://matsuta.sakura.ne.jp/>

カンファレンスパーク

メッセージは、カンファレンスパークで受け付けています
<https://conference-park.jp/base/187>



見たよ

↑クリックするとメッセージを送ることができます

共感から始まった立ち上がり補助具の共同開発

マツタ工業株式会社は、1966年に配管等の部材と部材を接合する樹脂フランジの加工で創業。「大型の金型」といえば同社の名前が挙がる。大型の産業機械装置の製作やプラスチック樹脂製品の加工、CAD設計や3次元製品モデリング、機械保全など幅広く手がける。同社が医療や福祉分野への挑戦を決めたのは、宮崎・大分両県が推進する「東九州メディカルバレー構想」がきっかけである。オムロン太陽株式会社が開発した足に力が入りにくい人のための立ち上がり補助具の改良に協力し、2021年3月には試作2号機を完成させた。現在、新型コロナウイルス感染症対策グッズや小児向けの歯科矯正器具の製造などにも取り組みを広げる同社代表取締役社長の松田佳久さんに話を伺った。

社会とつながるものづくりを目指して

マツタ工業が医療と福祉の分野への参入を決めた背景には、同社の樹脂加工部門の強化や、社会に貢献できる何かをすることで社員のモチベーション向上を図りたいという思いがあった。松田さん自ら足を運んで案件を探すと、2020年2月に宮崎県工業会から企業訪問会を案内された。残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で中止されたが、諦めきれなかった松田さんは、直接、企業に訪問のアポイントを取り付けた。その1社がオムロン太陽だった。足に力が入りにくい人が安心して立ち座りできる機構をオフィスチェアに後付けする特許をオムロン太陽が取得しており、その特許を活かした試作1号機が社屋の玄関に展示されていた。試作1号機の課題は機構をとりつけると35kgとかなり重くなってしまうことだった。これに対し、マツタ工業では、樹脂で小型・軽量化を図り、部材を減らした結果、2021年3月にはゲーミングチェアと同等の25kgまでの軽量を実現した。その後、肘当てを宮崎県産のヒノキ材に



立ち上がり補助具の試作2号

変えたり、現在も、より簡単に取り付けられるようにしたりなどの改良に努める。

「この取り組みを通して、障がい者が働く環境についての意識が同社の中で高まった」と松田さんは語る。

社会とつながるものづくりを目指して

次に同社が着手したのは、新型コロナウイルス感染症対策グッズだ。エレベーターのボタンを押したり、レバー式のドアの開閉に使えたり、もうひと工夫必要だが静電気を除去する仕様で、新型コロナウイルス感染症対策以外の用途にもアイデア次第で使えるデザインを目指す。最初の試作モデルは同社のノベルティとして配っている。

3つ目の挑戦が、小児の歯のワイヤー矯正で使う金属製の3mm角ブラケットで、製造を協力してくれる企業探索に取り組む。昨今、歯に取り付ける矯正器具も様々になってきたが、従来からある金属製のものがしっかりと固定できるという歯科医からのニーズに応え、医工連携のコーディネート役を買って出た格好だ。

折り鶴テスト、採用にもひと工夫

大型の金型を扱うマツタ工業の職人は、100分の1mm以下の精度の腕が求められる。採用では、折り鶴の展開図をもとにした折り紙のテストを実施し、「よく見て短い時間で仕上げて」と時間的なプレッシャーを感じながら、丁寧に仕上げることを試される。「雑な人はものづくりも雑。折り鶴の仕上がりに現れる」と、同社の技術を支える職人を採用してきた松田さんが取り入れた採用試験の一つ。こうしたものづくりの面白みの発信にも取り組む。同社の旋盤加工の職人が3分〜4分、回り続けるおもちゃのコマをつくったことがある。「楽しんでもらえれば」と、地元の幼稚園に試作品を寄贈したところ、園児の心を驚嘆みにするほど喜ばれた。その後、必要な数を原価で提供することになった。目を輝かせ、無我夢中にコマ回しを競い合う園児の姿に、旋盤加工の職人が逆に励まされたという。

「医療や福祉にこだわりすぎず、人と人とのつながりが生まれる仕掛けをしていきたい」と松田さんは話す。